

# 30点を目標に作品作り

〈1面から続く〉

「ここまで4月51月と約8カ月かかりです。この工程に大変な手間暇がかかります」と荒井さん。特に腐敗臭は強烈で、これで挫折する人も多いという。

次は、いよいよ乾燥したヒョウタンに色付けする段階。塗料は高価な専用の合成樹脂塗料ではなく、ホームセンターなどで売っているペイント。「長く続

けるためにお金はあまりかけられないので」と荒井さん。自宅の一部にある工房でヒョウタンに色付けしているが「30分も描いていると疲れてくるので休憩しながら2、3個並行して絵を描いています」と話す。1つの作品が完成するのに足掛け7日間程度かかるという。

▼親子や酒をテーマに最初のころは、えと

や依頼されたものを作ってプレゼントしていたが、次第に物足りなくなってきた。最近、取り組んでいるのが「親子」と「酒」というテーマ。母と娘や息子、あるいはネコなどの動物の親子の姿を描いて100点を超える作品を制作、その一方で「ほろ酔いシリーズ」と名付けた日本酒のとっくりとおちよこ、ワインの

母と娘や息子、あるいはネコなどの動物の親子の姿を描いて100点を超える作品を制作、その一方で「ほろ酔いシリーズ」と名付けた日本酒のとっくりとおちよこ、ワインの

ポトルとグラスなど約50点を制作している。

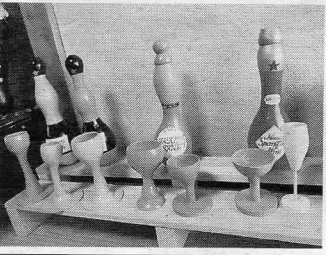
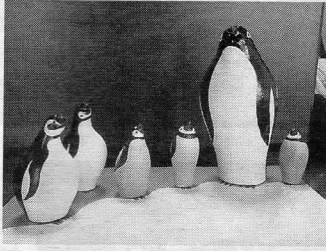
▼今年10月に個展開催

制作した作品は11年から「ひょうたん工芸展」として、これまで蓮田市などで合計6回開催。今年も10月に開催を予定している。

「今年の個展には300点近くの作品を展示したい。そのためには新たなシリーズにも取り組みたい」と荒井さんは意欲を見せる。

また、個展で関心を持った人には種をあげて、ヒョウタン工芸作りの輪を広めていこうと考えている。

荒井さんの作品に興味のある人は、ウェブサイトに「おじさんのひょうたん工房」で検索。また、ヒョウタン工芸の問い合わせは荒井さん(048・768・0542、Eメール: i-arai@rapid.ocn.ne.jp) まで。



家庭的な雰囲気を持つ荒井さんのヒョウタン工芸作品。家族や親子、酒などをさまざまなテーマをもとに作品にしている